

都道府県医師会
感染症危機管理担当理事 殿

日本医師会感染症危機管理対策室長
笹 本 洋 一

麻しん発生報告数の増加に伴う注意喚起について（協力依頼）

今般、厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課長より各都道府県等衛生主管部（局）宛に標記の事務連絡が発出されるとともに、本会宛にも周知方依頼がございました。

現在、インドネシアをはじめとする諸外国を推定感染地域とする輸入事例の報告が増加しており、今後、輸入事例の更なる増加や、国内におけるイベント、マス・ギャザリングを契機とした感染伝播の発生が懸念されます。

本事務連絡は、上記を踏まえ、都道府県に対し管下の保健所・医療機関等・海外渡航者に注意喚起を行うとともに、麻しんに関する特定感染症予防指針に基づく対応の徹底を周知するものです。

特に「第二 医療機関における対応」において、医療機関に対し、以下の 1 から 5 の対応が求められています。

- 1 発熱や発しんを呈する患者を診察した際の海外渡航歴・国内旅行歴を聴取すること。また、り患歴、予防接種歴の確認等、麻しんを意識した診療を行うこと。
- 2 麻しんを疑った場合には臨床診断の時点で、臨床診断例として直ちに最寄りの保健所に届出を行うこと。（感染症法第 12 条、特定感染症予防指針より）
- 3 診断においては、血清 IgM 抗体(※)検査等の血清抗体価の測定を実施し、保健所の求めに応じて検体を提出すること。
(※) 血清 IgM 抗体は、他の疾患でも交差的に陽性となることがあることから、必ずウイルス遺伝子検査を実施する必要がある。また、麻しんの疫学調査において、ウイルスのゲノム配列は極めて重要であることから、保健所は、感染症法第 15 条の規定に基づき、診断医療機関に対し、検体の提出を求めることがある。
- 4 医療従事者の麻しん含有ワクチン接種歴（2 回以上の接種）を確認していることが望ましい。
- 5 麻しんの感染力の強さに鑑みた院内感染予防対策を実施すること。

また、「第一 自治体における対応」においては、麻しんの予防接種率目標（95%）に到達するよう、引き続き積極的な接種勧奨に取り組むこととされております。

さらに、「第三 海外渡航者への注意喚起」では、渡航前は、過去定期接種を受けた記録がない場合は予防接種を検討すること、及び、り患歴やワクチン接種歴が不明な場合は抗体検査を受けることを検討することが求められています。

なお、帰国後に、発熱や咳そう、鼻水、眼の充血、全身の発しん等の症状が見られた場合は、医療機関に対して事前に麻しんの流行がみられる地域に渡航していたことや、麻しんの可能性について伝達したうえで受診することが求められています。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知いただくとともに、貴会管下の郡市区医師会並びに関係医療機関等に対するご周知につきご高配を賜りますようお願い申し上げます。

【関係資料】

- ・麻しんに関する特定感染症予防指針 平成 19 年 12 月 28 日（平成 28 年 2 月 3 日一部改正・平成 28 年 4 月 1 日適用、平成 31 年 4 月 19 日一部改正・適用）

<https://www.mhlw.go.jp/content/000503060.pdf>

- ・麻しんについて（厚生労働省）

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/measles/index.html

- ・麻しんの予防接種に関する啓発チラシ

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/keihatsu_tool/index.html

- ・海外渡航者への麻しんの注意喚起（厚生労働省）

<https://www.mhlw.go.jp/content/001509124.pdf>

<https://www.mhlw.go.jp/content/001509133.pdf>

- ・麻しん対策・ガイドラインなど（国立健康危機管理研究機構）

<https://id-info.jihs.go.jp/manuals/guidelines/measles/index.html>

- ・麻しん及び風しんの定期接種対象者に対する積極的な接種勧奨等について（令和 7 年 10 月 3 日付け感感発 1003 第 1 号・感予発 1003 第 1 号厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課長・予防接種課長連名通知）

<https://www.mhlw.go.jp/content/001575094.pdf>

- ・乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチンの今後の供給見通し等について（令和 6 年 12 月 12 日付け厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部予防接種課・感染症対策課連名事務連絡）

<https://www.mhlw.go.jp/content/001352011.pdf>

事 務 連 絡
令 和 8 年 2 月 13 日

公益社団法人 日本医師会 御中

厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課
厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部予 防 接 種 課

麻疹発生報告数の増加に伴う注意喚起について（協力依頼）

麻疹については、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成 10 年法律第 114 号。以下「感染症法」という。）において 5 類感染症に位置付けられており、同法第 12 条の規定に基づき、麻疹の患者を診断した医師は、都道府県知事等に対して直ちに届け出ることが義務付けられています。

現在、海外における麻疹の流行が報告されており、インドネシアをはじめとする諸外国を推定感染地域とする輸入事例の報告が増加しております^{*1}。

今後、輸入事例の更なる増加や、国内におけるイベントや不特定多数が集まる施設等のマス・ギャザリング環境を契機とした国内感染伝播の発生が懸念されます。

つきましては、貴会におかれては、貴会会員に注意喚起をご周知いただくとともに、麻疹に関する特定感染症予防指針（平成 19 年厚生労働省告示第 442 号。以下「特定感染症予防指針」という。）に基づく対応の徹底をお願いいたします。

なお、同様の事務連絡を都道府県等に発出していることを申し添えます。

（※1）感染症発生動向調査（IDWR）速報グラフ | 国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト [麻疹 発生動向調査](#) | [国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト](#)

事 務 連 絡
令 和 8 年 2 月 13 日

各 { 都 道 府 県
保健所設置市
特 別 区 } 衛生主管部（局） 御中

厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課
厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部予 防 接 種 課

麻しん発生報告数の増加に伴う注意喚起について（協力依頼）

麻しんについては、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号。以下「感染症法」という。）において5類感染症に位置付けられており、同法第12条の規定に基づき、麻しんの患者を診断した医師は、都道府県知事等に対して直ちに届け出ることが義務付けられています。

現在、海外における麻しんの流行が報告されており、インドネシアをはじめとする諸外国を推定感染地域とする輸入事例の報告が増加しております^{*1}。

今後、輸入事例の更なる増加や、国内におけるイベントや不特定多数が集まる施設等のマス・ギャザリング環境を契機とした国内感染伝播の発生が懸念されます。

つきましては、貴自治体におかれては、下記のとおり、貴自治体管内の保健所及び医療機関等や海外渡航者に対し、注意喚起を行っていただくとともに、麻しんに関する特定感染症予防指針（平成19年厚生労働省告示第442号。以下「特定感染症予防指針」という。）に基づく対応の徹底をお願いいたします。また、麻しんの臨床診断例などの疑い例及び検査診断例の発生届受理時には、下記の連絡先を確認いただき、自治体より厚生労働省及び国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 応用疫学研究センターへの一報をお願い申し上げます。

なお、同様の事務連絡を公益社団法人日本医師会に発出していることを申し添えます。

（※1）感染症発生動向調査（IDWR）速報グラフ | 国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト [麻疹 発生動向調査](#) | [国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト](#)

記

第一 自治体における対応

- 1 積極的疫学調査や検査の徹底を含め、特定感染症予防指針に基づく対応の徹底を行うこと。
- 2 保健所においては、「麻疹発生時対応ガイドライン第二版：暫定改訂版」を参考に、積極的疫学調査を実施すること。
https://id-info.jihs.go.jp/manuals/guidelines/measles/guideline02_20160603.pdf
- 3 臨床診断例などの疑い例については、特定感染症予防指針に基づき、地方衛生研究所等において、全例に対して核酸増幅法検査による確定検査を行うとともに、検査の結果、麻疹ウイルスが検出された場合は、可能な限り、地方衛生研究所等において麻疹ウイルスのゲノム配列の解析を実施し国に報告する又は国立健康危機管理研究機構に検体を送付すること。
- 4 麻疹の臨床診断例などの疑い例及び検査診断例の発生届受理時には、早期探知による対応等のために、以下の連絡先に、当該事例の感染症サーベイランスシステム報告 ID を送付すること。感染症サーベイランスシステム報告 ID が未付与又は不明の場合は、届出保健所、年齢、性別、麻疹含有ワクチン接種歴、症状、現時点での検査状況と結果を送付すること。（メールの件名に「麻疹」と記載して厚生労働省と国立健康危機管理研究機構の両方に送付すること）
- 5 患者の行動歴等から広域にわたる麻疹事例の発生が危惧される又は実際に発生がみられる時には、国や自治体間の連携が非常に重要となることから、そのような事案の発生時においては国立健康危機管理研究機構への疫学調査支援の要請を積極的に検討すること。

【4、5の連絡先】

厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課

TEL: 03-3595-2257 (特定感染症係) Email: SARSOPC@mhlw.go.jp

国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 応用疫学研究センター

TEL: 03-5285-1111 (2583) Email: outbreak@nih.go.jp

6 積極的疫学調査の結果、他の都道府県知事等が管轄する区域における感染症のまん延を防止するため必要があると認められる場合には、感染症法第 15 条第 14 項の規定に基づき、当該調査の結果を当該他の都道府県知事等に通報すること。

7 麻しんの予防接種は麻しんの感染予防法として最も有効な手段であるところ、令和 6 年度の接種実績（※）は、自治体によっては、特定感染症予防指針に定める接種率目標（95%）を下回っている。このため、各自治体におかれては、接種率目標（95%）に到達するよう、引き続き、積極的な接種勧奨に取り組むこと。

また、乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチンの定期接種の確実な実施に係る対応について、「麻しん及び風しんの定期接種対象者に対する積極的な接種勧奨等について」（令和 7 年 10 月 3 日付け感感発 1003 第 1 号・感予発 1003 第 1 号厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課長・予防接種課長連名通知）等において示しているため、参考にすること。

（※）麻しん風しん予防接種の実施状況

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou21/hashika.html>

第二 医療機関における対応

1 発熱や発しんを呈する患者を診察した際は、麻しんの可能性を念頭に置き、海外渡航歴及び国内旅行歴を聴取し、麻しんの罹患歴及び予防接種歴を確認するなど、麻しんを意識した診療を行うこと。

2 麻しんを疑った場合には、特定感染症予防指針に基づき、臨床診断をした時点で、感染症法第 12 条の規定に基づき、まず臨床診断例として直ちに最寄りの保健所に届出を行うこと。

3 診断においては、血清 IgM 抗体検査等の血清抗体価の測定を実施するとともに、地方衛生研究所等でのウイルス学的検査（※）の実施のため、保健所の求めに応じて検体を提出すること。

（※）血清 IgM 抗体は、他の疾患でも交差的に陽性となることがあることから、必ずウイルス遺伝子検査を実施する必要がある。また、麻しんの疫学調査において、ウイルスのゲノム配列は極めて重要であることから、保健所は、感染症法第 15 条の規定に基づき、診断医療機関に対し、検体の提出を求め

ることがある。

- 4 医療従事者の麻しん含有ワクチン接種歴（2回以上の接種）を確認していることが望ましい。
- 5 麻しんの感染力の強さに鑑みた院内感染予防対策を実施すること。

第三 海外渡航者への注意喚起

海外渡航の予定がある者に対して、次の2点について注意喚起を行うこと。

1 海外渡航前の注意事項

- ・ ウェブサイト等を参考に、渡航先の麻しんの流行状況を確認すること。
- ・ 母子保健手帳などを確認し、過去の麻しんに対する予防接種歴、り患歴を確認すること。
- ・ 過去定期接種を実施した記録がない場合は、渡航前に予防接種を受けることを検討すること。
- ・ 麻しんのり患歴やワクチン接種歴が不明な場合は、抗体検査を受けることを検討すること。

2 麻しんの流行がみられる地域に渡航後の注意事項

- ・ 渡航後、帰国後2週間程度は麻しん発症の可能性も考慮して健康状態に注意すること。
- ・ 発熱や咳そう、鼻水、眼の充血、全身の発しん等の症状が見られた場合は、医療機関を受診すること。また受診時には、医療機関に対して事前に、麻しんの流行がみられる地域に渡航していたことや、麻しんの可能性について伝達すること。
- ・ 医療機関を受診する際には、医療機関の指示に従うとともに、可能な限り公共交通機関を用いることなく受診すること。

第四 関係資料

上記の対応等の際し、必要に応じて、下記の関係資料を活用されたい。

- ・ 麻しんに関する特定感染症予防指針 平成19年12月28日（平成28年2月3日一部改正・平成28年4月1日適用、平成31年4月19日一部改正・適用）

<https://www.mhlw.go.jp/content/000503060.pdf>

- ・ 麻しんについて（厚生労働省）

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/measles/index.html

- ・ 麻しんの予防接種に関する啓発チラシ

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/keihatsu_tool/index.html

- ・ 海外渡航者への麻しんの注意喚起（厚生労働省）

<https://www.mhlw.go.jp/content/001509124.pdf>

<https://www.mhlw.go.jp/content/001509133.pdf>

- ・ 麻しん対策・ガイドラインなど（国立健康危機管理研究機構）

<https://id-info.jihs.go.jp/manuals/guidelines/measles/index.html>

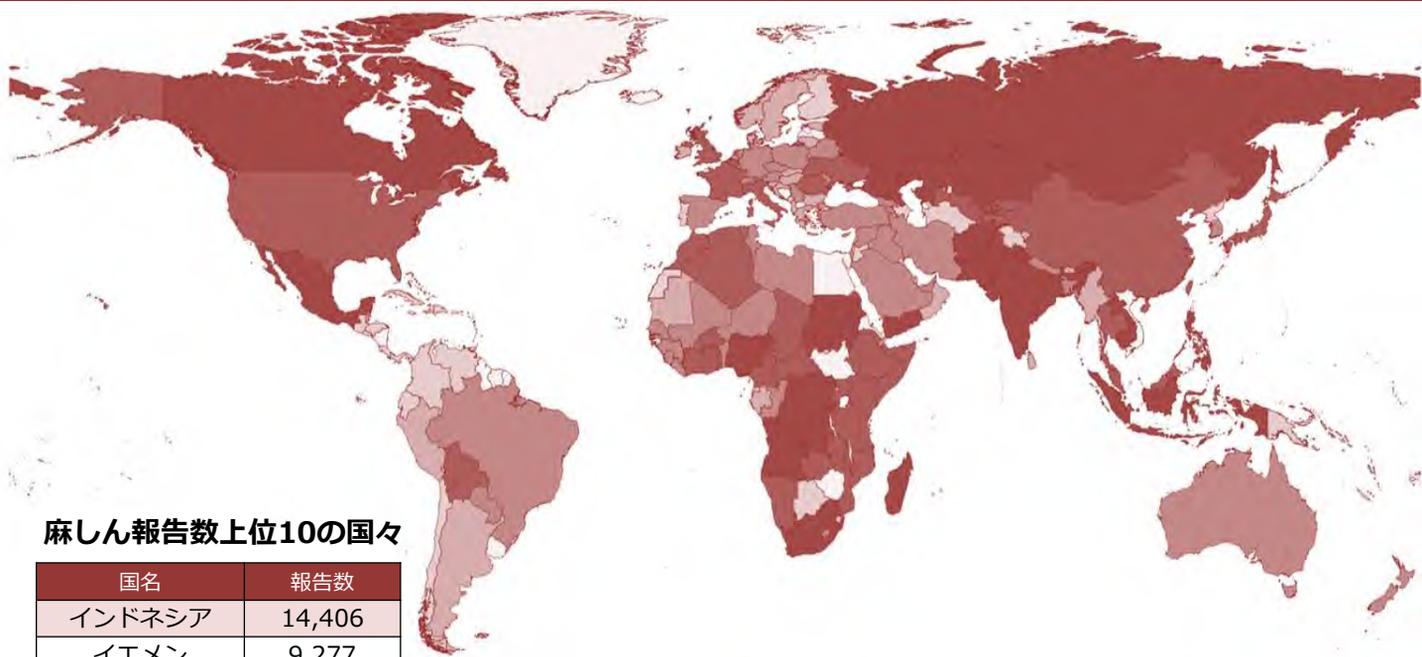
- ・ 麻しん及び風しんの定期接種対象者に対する積極的な接種勧奨等について（令和7年10月3日付け感感発1003第1号・感予発1003第1号厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課長・予防接種課長連名通知）

<https://www.mhlw.go.jp/content/001575094.pdf>

- ・ 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチンの今後の供給見通し等について（令和6年12月12日付け厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部予防接種課・感染症対策課連名事務連絡）

<https://www.mhlw.go.jp/content/001352011.pdf>

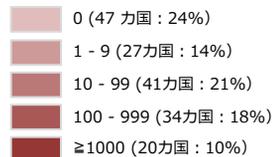
「麻疹（はしか）」は 世界で流行している感染症です。



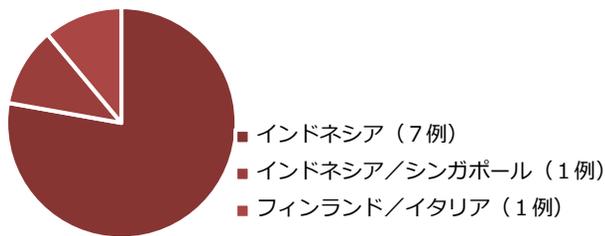
麻疹報告数上位10の国々

国名	報告数
インドネシア	14,406
イエメン	9,277
モンゴル	8,483
パキスタン	8,310
インド	8,184
アンゴラ	5,823
ナイジェリア	4,676
メキシコ	3,164
ロシア連邦	2,939
ラオス人民民主共和国	2,859

麻疹報告数



日本国内で届出された麻疹症例の推定感染地域



WHO(世界保健機関) 麻疹報告数 (2025年6月~2025年11月)

2026年1月現在; 一部改変

<https://www.who.int/teams/immunization-vaccines-and-biologicals/immunization-analysis-and-insights/surveillance/monitoring/provisional-monthly-measles-and-rubella-data>

2026年第1週~第5週 (2025年12月29日~2026年2月1日)

海外へ行く前に

- 麻疹の予防接種歴を母子手帳などで確認しましょう
- 定期接種を受けていない方は、接種を検討してください

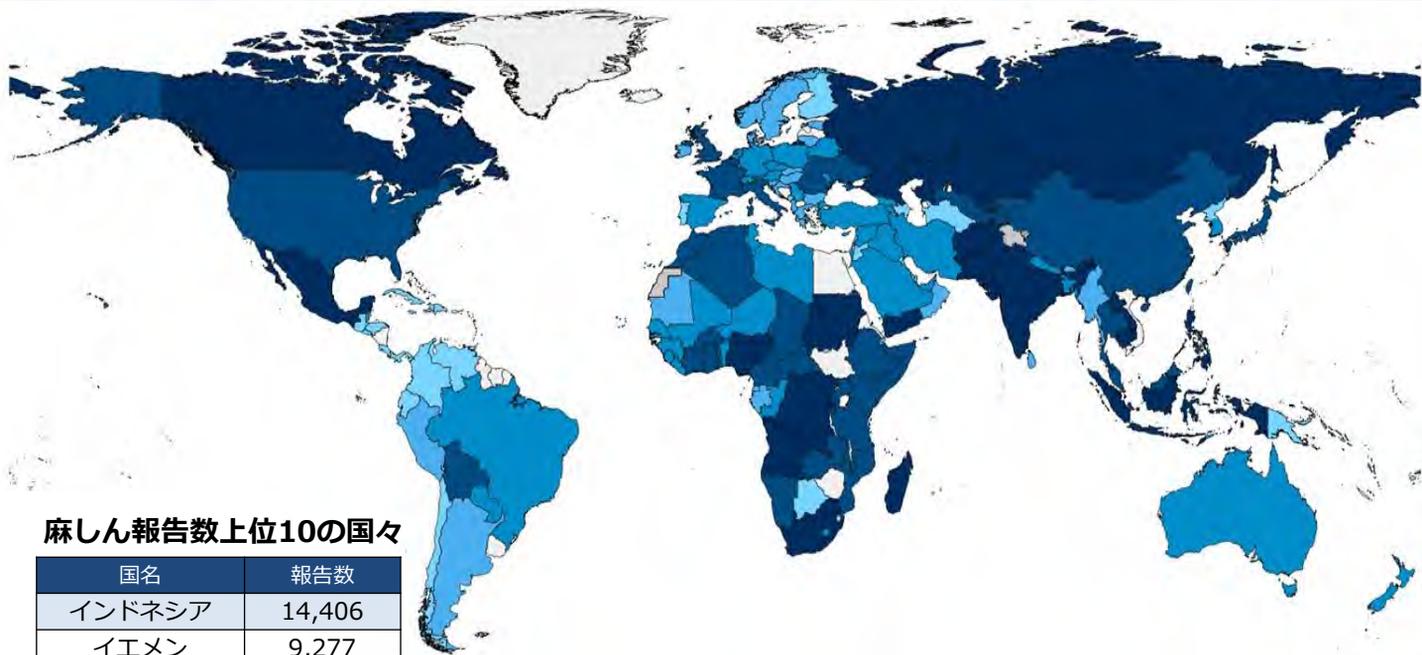
詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください



海外から帰国された方へ

帰国後2週間程度は

麻疹 発症の可能性を考慮し 健康状態に注意してください。



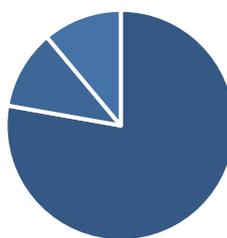
麻疹報告数上位10の国々

国名	報告数
インドネシア	14,406
イエメン	9,277
モンゴル	8,483
パキスタン	8,310
インド	8,184
アンゴラ	5,823
ナイジェリア	4,676
メキシコ	3,164
ロシア連邦	2,939
ラオス人民民主共和国	2,859

麻疹報告数



日本国内で届出された麻疹症例の推定感染地域



- インドネシア (7例)
- インドネシア/シンガポール (1例)
- フィンランド/イタリア (1例)

WHO(世界保健機関) 麻疹報告数 (2025年6月~2025年11月)

2026年1月現在;一部改変

<https://www.who.int/teams/immunization-vaccines-and-biologicals/immunization-analysis-and-insights/surveillance/monitoring/provisional-monthly-measles-and-rubella-data>

2026年第1週~第5週 (2025年12月29日~2026年8月2月1日)

帰国後2週間程度は

高熱や全身の発しん、せき、鼻水、目の充血などの症状に注意しましょう

詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください



厚生労働省

